

## 令和7年度「消防ワーキンググループ会議」の結果

令和8年3月18日

鳥取県救急搬送高度化推進協議会事務局

## 【ワーキンググループの目的】

- 「人生の最終段階にあり心肺蘇生等を希望しない意思を示した心肺停止事例に対する救急隊活動プロトコル」(以下、「DNAR プロトコル」という。)を令和7年4月に策定したことに伴い、運用後の課題抽出及び症例検証方法等を検討する。
- 「傷病者の搬送及び受入れに関する実施基準」(以下、「搬送実施基準」という。)の脳卒中の各種基準を令和7年4月に改正したことに伴い、血栓回収療法の治療を目的とした脳卒中の分類基準及び観察基準について運用しながら検証を行うこととしていたことから、運用後の課題抽出及び症例検証方法等を検討する。

## 【報告】

- 本ワーキンググループ会議における検討結果については下記のとおりです。

## 1 検討結果

## (1) DNAR プロトコル

## ア 現状

- ① プロトコルに基づいた活動により不搬送とした事案はなく、現場で心肺蘇生に関する医師の指示書の提示がないことによる理由が多い。
- ② 運用上、フロー等の手順の見直しを検討するべきではとの意見。
- ③ 救急現場では指示書の作成がない状況で心肺蘇生を望まない意思の提示を受けるケースがあり、指示書や統一様式の普及が不十分である。

## イ 結果

- ① 運用結果を踏まえてDNARプロトコル改正の検討をした方がよい。
- ② 医療機関・高齢者福祉施設関係者や住民へのDNARに関する知識の啓発と統一様式(指示書)普及を図る。医師会、訪問看護団体、老人福祉施設関係団体に説明し、働きかける。
- ③ プロトコルの検証を目的に統計調査を来年度も継続する。  
調査項目として、発生場所区分とプロトコルに基づいて不搬送とした事案におけるかかりつけ医等への引継ぎ方法と引継ぎに要する時間を追加する。

## (2) 搬送実施基準(脳卒中)

## ア 現状

- ① LV0スケールの観察基準により、血栓回収療法適応と判断した場合の搬送先として、一次脳卒中センター(PSC)に92.7%を搬送。救急活動としては適切に運用され、支障は生じていないと考えられる。
- ② 東部消防局では脳卒中の観察結果を記載する「ELV0スコア評価チェックリスト」を管内医療機関と共通の用紙として使用し、情報伝達をしている。

## イ 結果

- ① 搬送実施基準の検証を目的に統計調査を来年度も継続する。
- ② 現在、各消防局における医療機関への観察結果の伝達方法はそれぞれの手法で行っており病院との情報伝達に支障はないため、現状のまま運用を続ける。

## 2 「消防ワーキンググループ会議」の開催概要

日時：令和8年3月9日(月) 午後2時15分から午後3時10分まで

開催方法：オンライン形式

(参考) 消防ワーキンググループ会議資料

【資料2-1】DNAR事案の救急搬送状況と課題の検討について

【資料2-2】脳卒中事案の救急搬送状況と課題の検討について

(参考)「消防ワーキンググループ会議」の委員構成

	所属	職名	氏名
1	鳥取大学医学部附属病院高度救命救急センター	センター長	上田 敬博
2	鳥取県東部広域行政管理組合消防局警防課	課長補佐	佐々木 雅人
3		救急係長	竹内 賢司
4	鳥取県東部広域行政管理組合消防局 鳥取消防署東町出張所	主幹	藤岡 哲広
5	鳥取中部ふるさと広域連合消防局警防課	課長補佐兼 救急係長	津村 孝志
6	鳥取中部ふるさと広域連合消防局琴浦消防署	救急係長	南 幸治
7	鳥取中部ふるさと広域連合消防局湯梨浜消防署	救急係主幹	松井 裕美
8	鳥取県西部広域行政管理組合消防局警防課救急室	室長	篠田 豊和
9		室長補佐	益田 真次
10	鳥取県西部広域行政管理組合消防局大山消防署	担当署長補佐	松岡 昌史
11	鳥取県西部広域行政管理組合消防局米子消防署	担当署長補佐	西村 貞彦